

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
1	ヨブスマソウ	キク科		4	ツルニンジン(ジソブ)	キキョウ科	
	 <p>低地～山地の湿った林内などに生え、茎の高さは1～2.5メートル、時に3メートルに達する。大型の円錐花序に、多数の頭花をつける。花冠は長さ8ミリ前後、総苞は長さ1～1.2センチ総苞片は5～8個、1個の頭花は6～9個の筒状花からなる。根生葉は花期には枯れてなくなる。茎の中部の葉は翼のある長柄があり、ふつう耳状に茎を抱く。葉身は三角状ほこ形で、先がとがり、縁に突起状の鋸歯がある。ヨブスマとはコウモリのことで、葉の形が翼を広げたコウモリに似ること由来するという。</p>				 <p>つる性多年草、北海道～九州の山麓や平地の林の中に生える。葉は互生するが、側枝の先ではふつう3～4個集まってつき、長さ3～10cmの長卵形で、裏面は粉白を帯びる。花は側枝の先に下向きにつき、白緑色で内側に紫褐色の斑点がある。花冠は長さ2.5～3.5cmの仏鐘形。根は倒卵状紡錘形で、先端が細くなる。萼片は長さ2～2.5cm、さく果は直径2～2.5cm、種子は淡褐色で光沢はなく、片側に種子よりおおきな翼がある。花期は8～10月。</p>		
2	ミミコウモリ	キク科		5	クルマバソウ	アカネ科	
	 <p>低地～山地の林縁などに生え、茎の高さは60～120センチ。茎頂の総状円錐花序に、長さ約1センチの白色の頭花を多数つける。頭花は5～6個の筒状花からなり、花冠の先は浅く5裂する。雌しべは1個、雄しべは5個、葉は腎形で、長い柄があり、3～4個が互生する。基部は耳状で茎を抱く。</p>				 <p>多年草、北海道～本州の山地の林内に生える。茎は直立して高さ20～30cmになり、枝分かれせず、無毛。葉は6～10個が輪生し、狭長楕円形または倒披針形で長さ1.5～4cm、幅3～13mm、柄はない。花冠は白色で漏斗形、先は4裂し、長さ5mmほど。雄しべは4個、果実は球形でかぎ状毛が密に生え、乾くとクマリンの芳香がある。葉は乾いてもクルマムグラと違い黒くならない。花期は5～7月。</p>		
3	ヤマニガナ	キク科		6	オオバコ	オオバコ科	
	 <p>1～越年草 日本全土の山地に普通。茎は直立し高さ60～80cm、葉は膜質で上面深緑色、下面はやや粉白色となり、下部のものは往々羽裂する。花序は細長い円錐形で頭花は径1cm内外、総苞は長さ約1cm、内片は5個、そう果は長さ3.5～4mmで両面に3肋がある。冠毛は白色。花期は8～9月。</p>				 <p>多年草、日本全土の日当たりのよい道ばたや荒地などにふつうに見られる。踏み固められた道路などにも平気で生える。葉は全て根生し、長さ4～15cm、幅3～8cmの卵形または広卵形、まれに楕円形と変化が多い。葉柄は長く、断面は半月形。根生葉の間から高さ10～20cmの花茎を数本のぼし、小さな花を穂状にびっしりとつける。花萼片は長さ約2mmでふちは白色の膜質。苞は萼片より小さく、先端は赤みを帯びる。果実は熟すと中央部に横に割れる蓋果。上半部は円錐状でややとがり、この部分が帽子のようにとれる。種子は6～8個、花期は4～9月。</p>		

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
7	クサノオウ	ケジ科		10	サイハイラン	ラン科	
							
<p>越年草、北海道～九州の日当たりのよい道ばたや草地、林縁などに生える、高さ30～80cm、全体に縮れた毛が多いので、白っぽく見える。茎や葉を切ると黄色の乳液がでる。葉は1～2回羽状に裂ける。花は鮮黄色で直径約2cm、多数の雄しべの間に体をくねらせた青虫のような雌しべがある。毛の多い12個の萼片は開花と同時に落ちる。さく果は長さ3～4cmの細長い円柱形、種子は熟すと黒くなり、種枕がつく。花期は4～7月。</p>				<p>多年草、北海道～九州の山林内に生える。偽球は卵球形で高さ2～3cm、葉は1～(2)個、偽球に頂生し長楕円形、長さ20～40cm、幅4～8cm、無毛で両端尖り、3脈が目立つ。基部は3～10cmの葉柄となる。花茎は偽球に側生し、直立して高さ30～50cm、太さ3～5mmあって数個の鞘状葉がある。花は淡緑褐色で紅紫色を帯び、下垂して弁はあまり開かない。ずい柱は棒状で長さ2.6cm、花粉塊は4個、果実は長楕円形で長さ2～2.5cm、先に長いずい柱が残る。花期は5～6月。</p>			
8	オオハナウド	セリ科		11	オニシモツケ	バラ科	
							
<p>オオハナウドは北海道と本州の近畿地方以北、ウスリー、オホーツク、千島、カムチャッカに分布する、大型の多年生草本。本州では高海拔地を中心に生育するが、北海道では低地から山地まで広く見られる。日当たりの良いやや湿った林内に生育して、しばしば群生する。全草大型で草丈は2メートル程にもなり、葉も大きくて3小葉からなり、頂小葉は大人の顔が隠れるほどである。花序も大きく、白い花が無数に集まり半球形となり、遠くからでもよく目立つ。</p>				<p>北海道および本州中北部に分布。山地の湿地に生える多年草。菅平湿原で見られる。根茎は太い。茎は高さ1～2m、稜角がある。葉は互生、奇数羽状複葉。頂小葉は円形～扁円形、幅15～25cm、掌状に5裂し、基部は浅く湾入、縁に重鋸歯がある。花期は6～9月。花は直径6～8mm、白色まれに薄紅色。茎の先に散房状に多数つく。花序には短毛が密生。がく片は合生、浅い碗状、5裂片があり、花時に反曲。花弁は(4～)5個、倒卵形、全縁。</p>			
9	キツリフネ	ツリフネソウ科		12	エゾトリカブト	キンポウゲ科	
							
<p>キツリフネは、北半球に広く分布し、日本では北海道から九州にみられる1年生草本。低地から山地の谷あいの林内や林縁など、湿った半日陰地に生育する。和名は黄色の花を咲かせるツリフネソウの意味。高さは50センチほどで、茎は直立して枝を分け、全体に軟弱なイメージがある。葉は互生し、葉身は楕円形で、質はやわらかい。北海道では夏の初めから秋にかけて、葉腋から細い花茎を出し、黄色の花を数個咲かせる。花は、つぼみの時期は葉の上にあるが、膨らんで大きくなるにつれて下垂し、開花するころには葉の下(裏)にある。</p>				<p>北海道の湿った山野に自生する キンポウゲ目キンポウゲ科トリカブト属の多年草です。烏帽子に似た紫色の花のようなものは萼片で、花は隠れて見えません。全草が猛毒で知られ、北海道の先住民は矢毒に使いました。多年草 草丈60～150cm 花序形散房花序 花冠長3cm 花色青紫 花烏帽子状の花のように見えるのは5枚の萼片、本当の花弁は2枚で見えない 葉形3裂 果実形袋果 雄蕊数多数 雄蕊色暗紫色 注記:全草に猛毒あり</p>			

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
13	サラシナショウマ	キンポウゲ科		16	ヒトリシズカ	センリョウ科	
							
<p>多年草、北海道～九州の山地の木陰や草原に生える。地下茎は横に伸びる。茎は高さ1mに達し、上部は分枝して短毛を密生するが、下部は無毛。葉は互生し、長柄があって大きく、下葉は35～55cm、3回3出、上部のものは2～3回3出。葉柄基部は広がり膜質となって茎を抱く。小葉は卵形、欠刻縁、鋭頭または鋭尖頭、両面に短毛を散生する。長い総状花序をつける。花柄は5～10mm、密に短毛がある。花柱は1～2mm、先は少し曲がる。種子は長さ2mm、翼がある。花期は8～10月。</p>				<p>多年草、北海道～九州の山野の林内や草地に生える。高さ10～30cm、茎は直立し、はじめ赤紫色を帯びるものが多い。茎の下部の節には膜質の鱗片状の葉がつく。上部には2対の葉が十字形に対生するが、節間がごく短いので、4個の葉が輪生しているように見える。葉は光沢のある濃緑色で、長さ6～10cmの楕円形～卵状楕円形、先は短く急にとがり、雄しべの花糸は白色でよく目立つ。外、果実は核果で長さ2.5～3mmのゆがんだ倒卵形。花期は4～5月。</p>			
14	オオイタドリ	タデ科		17	マルヅルソウ	ユリ科	
							
<p>山野、道端、川べりなどに生え、茎の高さは1～3メートル。葉腋から立ち上がる花序に、小さな花を多数密につける。雌雄異株で、雌花は下向きに穂状に垂れ、雄花は上向きに穂状に立つ。葉は広卵形で、長さ15～30センチ、幅10～25センチ。基部は心形で、先がとがり、裏面は粉白色を帯びる。和名のオオイタドリはイタドリより大型であることに由来する。イタドリ(疼痛、および痛取)は、葉を揉んで貼り付けると、打ち身などの痛みが取れることに由来するという。</p>				<p>多年草、北海道～九州の山地から亜高山帯の針葉樹林内に生える。根茎は長くはう。茎は高さ10～25cm、葉は長さ2～4cmの柄があり、卵心形で長さ3～7cm、先はとがり、基部は深い心形。茎頂に白色の小さな花を多数総状につける。花被片は4個、長さ約2mmでそり返る。果実は球形の液果で直径5～7mm、赤く熟す。花期は5～7月。</p>			
15	ミゾソバ	タデ科		18	オオウバユリ	ユリ科	
							
<p>北海道～九州の溝や水辺に多い。茎は地をはい節から根をだし、上部は立って30～70cmとなり、まばらに逆刺がある。葉は卵状ほこ形で4～10cm、先は鋭尖形、まれに鈍頭、質薄く、両面に刺毛星状毛を散生する。葉柄には逆刺があるが、ないこともある。葉鞘は短く、ふちは多くは毛が生えていて、時に広がって緑色となるが歯牙はない。花は枝の先に頭状につく。花柄に腺毛がある。花被は紅紫色で下部は白色、長さ4～5mm、5裂する。果実は3稜形、深褐色、径3mm、花期は8～10月。</p>				<p>本州の中部以北、北海道に分布し、やや湿り気のある林内、林縁に自生する。高さは1.5～2.0mくらいになり、花期は7～8月で、10～20個の黄緑色ないし緑白色の花をつける。翌春まで立ち枯れた、実をつけた茎をみることがある。花をつけた株は一生を終えるが、元株の脇に子株が育っている。関東地方以西から四国、九州に分布するウバユリより大型で、花の数も多い。</p>			

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
19	オオアマドコロ	ユリ科				ユリ科	
	<p>低地～山地の湿った林内などに生え、茎の高さは60～100センチで、稜角がある。葉腋から花柄を下げ、長さ2～2.5センチの白色で先が緑色の花を2～4個つける。葉は互生し、長楕円形、裏面は粉白色を帯び、小脈上に微細な突起がある。果実は茎の下部につけ、直径約1センチの球形の液果で、黒紫色に熟す。花期：5～6月</p>						
20	コウライテンナンショウ	サトイモ科					
	<p>低地～山地のやや暗い林内や林縁などに生え、茎の高さは30～80センチ。雌雄異株。茎は緑で紫褐色のまだら模様がある。茎先に、筒状の仏炎苞(苞葉)をつけ、緑色に白色のすじがついた縞模様がある。筒の中には、こん棒状の付属体がある。葉は鳥足状の複葉、小葉は長楕円形で、7個以上ある。果実は赤く熟す。ことが見分けのポイントだという。また、コウライテンナンショウはヘビのムムシの肌に見て紫がかかった褐色のまだら模様が見られる。</p>						
	シャク	セリ科					
<p>多年草。北海道～九州の山の谷間に生える。根は太く肥大する。茎は中空で高さ1m内外に達し上部は分枝する。葉は2～3回羽状で軟かく、下面脈上に剛毛が散生する。花は白色で、花序の周辺部の花は外方の花弁が大きくなっている。小総苞片は数個あり長さ2～5mmで反曲する。果実は小散形花序に5～11個がみのり、長さ6～8mm、若い時は花柄の先に剛毛からなる小冠があり、披針形平滑で熟すと黒くなる。花期は5～6月。</p>							